

V2C ツール ユーザーマニュアル

株式会社カール

2008/11/07

目次

1. システム要件.....	3
2. V2C -アセスメント・ツール インストール手順.....	4
3. V2C -アセスメント・ツール操作手順.....	8
4. トラブルシューティング.....	11
5. アセスメント結果構成.....	12
6. アセスメント結果集計.....	13
7. アセスメント結果.....	17
8. お問い合わせ.....	20

1. システム要件

V2C-アセスメント・ツールは、実行環境として JDK6 を使用します。JDK6 のシステム要件を参照して下さい。

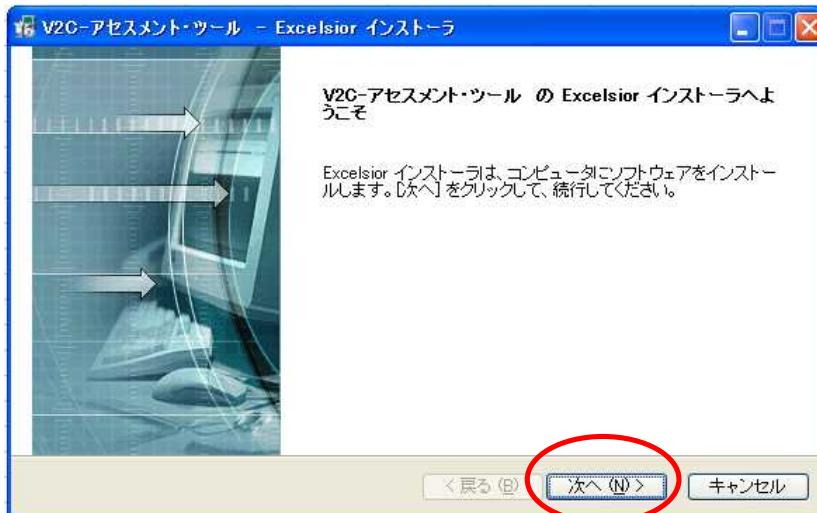
<http://java.sun.com/javase/ja/6/webnotes/install/system-configurations.html>

尚、下記 OS にて動作確認済みです。

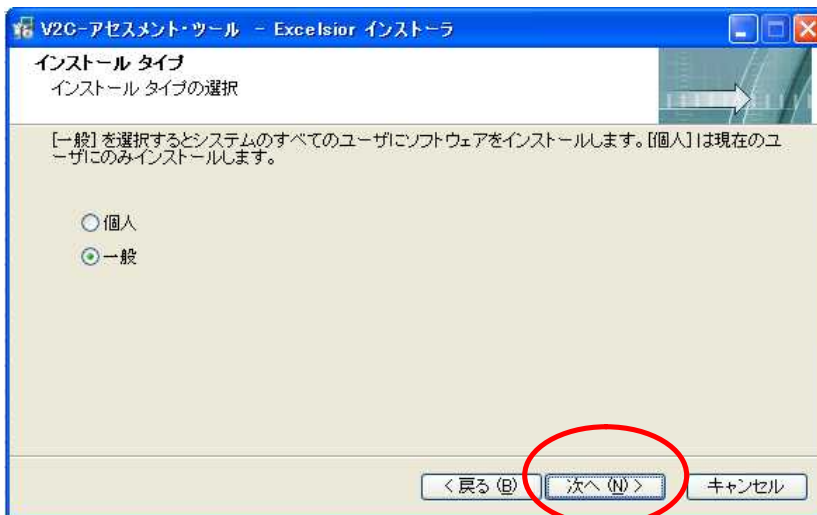
- ・ Windows2000 SP4
- ・ WindowsXP SP2

2. V2C アセスメント・ツールインストール手順

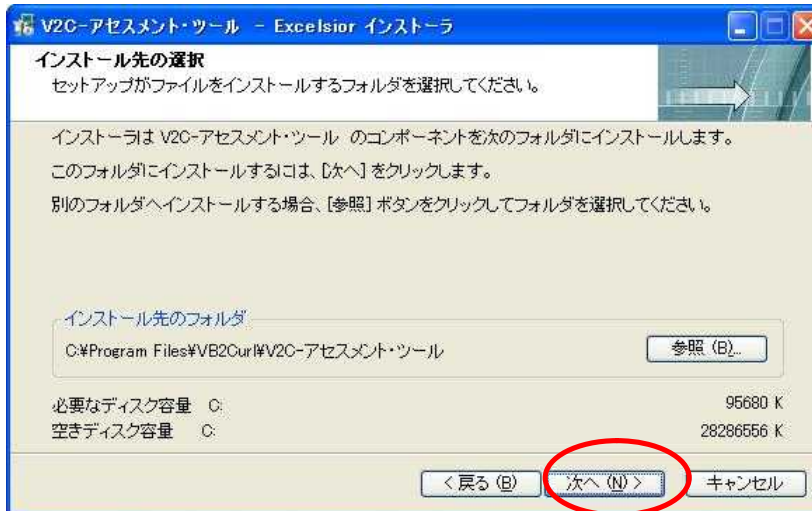
1. V2C-アセスメント・ツール-Installer.exe をダブルクリックし、インストーラを起動します。
2. [次へ] ボタンを押します。



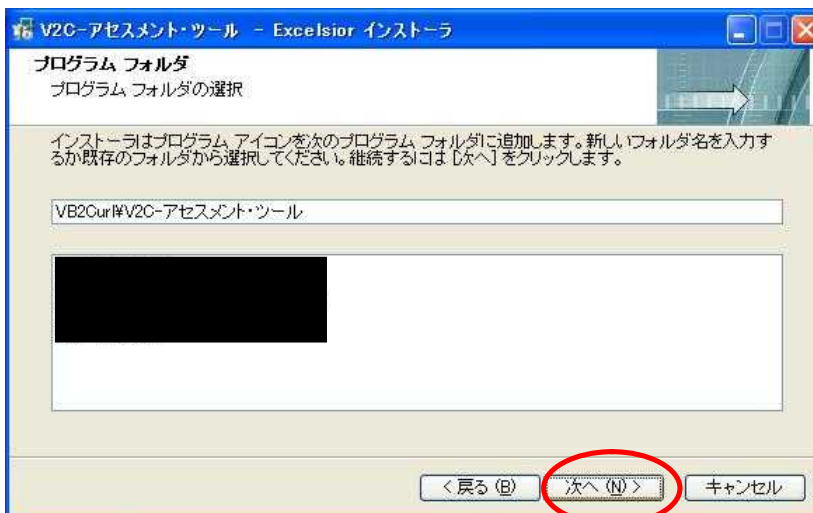
3. インストールタイプを選択し、[次へ] ボタンを押します。



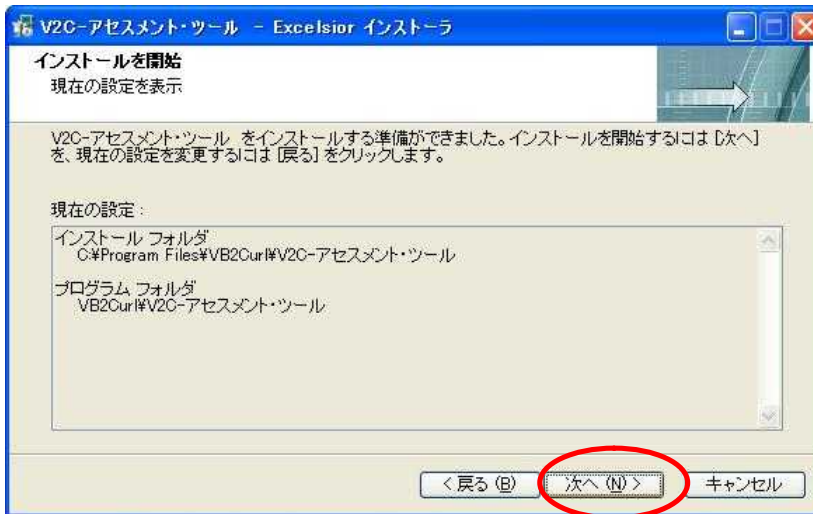
4. インストール先を選択し、[次へ] ボタンを押します。既定では、C:\Program Files\VB2Curl\VB2C-アセスメント・ツールとなります。



5. プログラムフォルダを選択し、[次へ] ボタンを押します。プログラムフォルダで指定したものが、スタートメニューのすべてのプログラムに反映されます。既定では、VB2Curl\VB2C-アセスメント・ツールです。



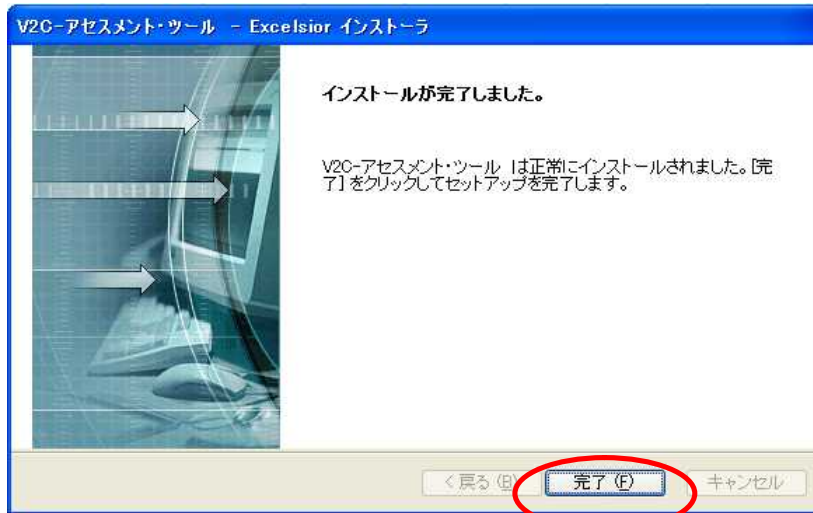
6. 4.のインストールフォルダ及び 5.のプログラムフォルダを確認し、[次へ] ボタンを押してインストールを開始します。



7. インストールが完了するまで暫くお待ち下さい。



8. [完了] ボタンを押して、インストールを終了して下さい。
スタートメニューのすべてのプログラムから、V2C-アセスメント・ツールがインストールされていることを確認して下さい。既定では、すべてのプログラム>VB2Curl>V2C-アセスメント・ツールとなります。



3. V2C アセスメント・ツール操作手順

1. V2C-アセスメント・ツールを起動します。

すべてのプログラムから、V2C-アセスメント・ツールを選択して下さい。V2C-アセスメント・ツールが起動します。既定では、すべてのプログラム>VB2Curl>V2C-アセスメント・ツールとなります。

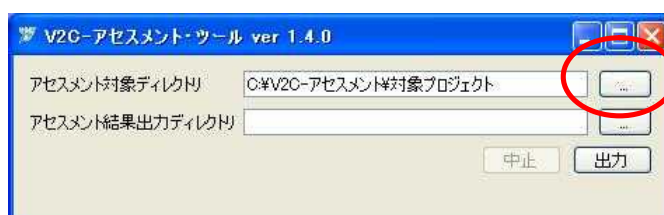


2. アセスメント対象のディレクトリを選択します。

対象ディレクトリへのパスを直接入力するか、[...]ボタンを押して、.vbp ファイルが含まれているアセスメント対象のディレクトリ、又は.vbp ファイルを選択して下さい。ディレクトリを指定した場合、指定したディレクトリ以下の.vbp ファイル全てがアセスメントの対象となります。

また、.vbp ファイルを指定することも可能です。

過去にアセスメントを実行したことがある場合、前回指定したパスが自動的に表示されます。



3. アセスメント結果を出力するディレクトリを選択します。

対象ディレクトリへのパスを直接入力するか、[...]ボタンを押して、アセスメント結果を出力する任意のディレクトリを選択して下さい。指定したディレクトリが存在しない場合は、自動的に生成されます。

過去にアセスメントを実行したことがある場合、前回指定したパスが自動的に表示されます。



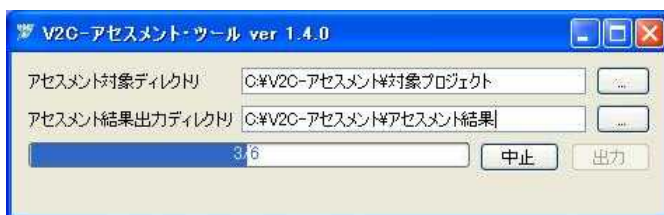
4. アセスメントを実行します。

[出力]ボタンを押します。



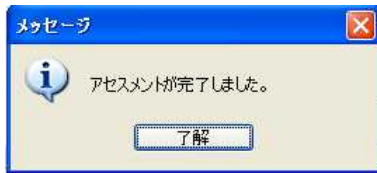
5. アセスメント実行中です。

アセスメント実行中は、プログレスバーでアセスメント対象ファイル数に対するアセスメント完了ファイル数を参照することが可能です。



6. アセスメント完了です。

「アセスメントが完了しました。」というメッセージが表示されるとアセスメント完了です。アセスメントの見方に関しては、5 項『アセスメント結果構成』以降をご参照下さい。



プログレスバーの分母と分子が異なる値で終了する場合があります。

理由は以下の 3 点が考えられます。

.vbp ファイルにて参照設定されているファイル(frm ファイル / bas ファイル / cls ファイル)がアセスメント対象ディレクトリ内に存在しない場合。

複数の.vbp ファイルが同一のファイル(frm ファイル / bas ファイル / cls ファイル)を参照しており、重複してアセスメントの実行しない機能が働いている場合。

エラーが発生し、アセスメント実施をスキップした場合。(log.txt にエラーが発生したファイルを確認できます。)

4. トラブルシューティング

Q. 「アセスメント対象ディレクトリが不正です」という内容のエラーが表示されます。

A. アセスメント対象ディレクトリが指定されていないか、パスが間違っている可能性があります。[...]ボタンを押して、.vbp ファイルが含まれているアセスメント対象のディレクトリ、又は.vbp ファイルを選択して下さい。

Q. 「出力ディレクトリが不正です」という内容のエラーが表示されます。

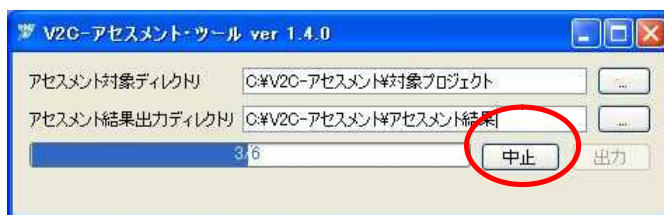
A. アセスメント結果出力ディレクトリが指定されていない可能性があります。[...]ボタンを押して、アセスメント結果を出力する任意のディレクトリを選択して下さい。

Q. [出力]ボタンを押すと、「xxxx が使用中です」というエラーが表示されます。

A. アセスメントで出力するファイルを開いている可能性があります。開いているファイルを閉じてください。

Q. アセスメントを中断したい場合は、どのようにすればよいですか？

A. [中止] ボタンを押して下さい。中断するかどうかを尋ねるポップアップが表示されますので、[[はい]]を選択して下さい。中断前までにアセスメントが完了している.vbp ファイルのアセスメント結果、詳細、及びログファイルが出力されます。



上記の対処でも終了しない場合は、ウィンドウの「閉じる(x)」ボタンを押して終了させてください。

5. アセスメント結果構成

V2C-アセスメント・ツールで出力ディレクトリに設定したディレクトリに、次のファイルが作成されます。

- ・ **アセスメント結果**

アセスメント対象となっている.vbp ファイル毎のアセスメント結果が『プロジェクトファイル名.xls』の形式で作成されます。

- ・ **アセスメント結果集計**

アセスメント対象となっている全.vbp ファイルのアセスメント結果が『アセスメント結果集計.xls』の形式で作成されます。

指定したアセスメント対象ディレクトリに.vbp ファイルが複数存在しない場合

このファイルは作成されません。

.vbp ファイルを選択し、アセスメントを実施した場合、このファイルは作成されません。

6. アセスメント結果集計

アセスメント対象となっている全.vbp ファイルのアセスメント結果のサマリです。

【VBコンバート アセスメントレポート】	
① 実施ver	: 1.4.0
② 実施日時	: 2008年11月05日 12時00分
③ 対象ディレクトリ	: C:\¥V2C-アセスメント¥対象プロジェクト
④ 処理時間	: 00:06.65
⑤ プロジェクト数	: 6

1. 実施 ver

アセスメントを実施したアセスメント・ツールのバージョン

2. 実施日時

アセスメントを実施した日時

3. 対象ディレクトリ

V2C-アセスメント・ツールで選択したアセスメント対象となる全.vbp ファイルを含んだディレクトリ

4. 処理時間

アセスメント対象となっている全.vbp ファイルのアセスメントに所要した時間

5. プロジェクト数

2.のディレクトリに含まれる.vbp ファイル数の合計

【VBファイル種類別変換率サマリ】							④【変換率評価】			
①ファイル種類	②本数	③総行数	④空行	⑤コメント行	⑥コンバート対象行	⑦変換率	評価A	評価B	評価C	評価D
フォーム(OCX有)	94	77223	4912	5689	66622	95%	93	1	0	0
フォーム(OCX無)	1	277	23	27	227	87%	1	0	0	0
標準モジュール	21	6608	686	1349	4573	95%	20	0	0	1
クラスモジュール	7	4099	368	1000	2731	95%	5	1	1	0
バイナリーフォーム										
合計	123	88207	5989	8065	74153	95%	119	2	1	1

アセスメント対象となっているファイルの種類別変換率に関する表です。又、変換率に基づいた評価の一覧もご覧頂けます。

1. ファイル種類

アセスメント対象となっている全.vbp ファイルが参照している各種ファイルの種類

- ・ フォーム(OCX 有)・・・OCX を含む.frm ファイル
- ・ フォーム(OCX 無)・・・OCX を含まない.frm ファイル
- ・ 標準モジュール・・・.bas ファイル
- ・ クラスモジュール・・・.cls ファイル
- ・ バイナリーフォーム・・・.frx ファイル

2. 本数

ファイル種類に該当するファイル数の合計

3. 総行数

ファイル種類に該当するファイルにおける行数の合計

4. 空行

ファイル種類に該当するファイルにおける空行の合計

5. コメント行

ファイル種類に該当するファイルにおけるコメント行の合計

6. コンバート対象行

3.総行数 - 4.空行 - 5.コメント行

7. 変換率

(6.コンバート対象行 - (エラー行() + ライブラリ未対応行)) / 6.コンバート対象行

エラー行:本ツールにて認識できないVBの構文がアセスメント対象ソースに含まれている場合エラー行としてカウントされます。

8. 変換率評価

ファイル種類に該当するファイルを変換率で見た内訳

- ・ 評価 A・・・80%以上
- ・ 評価 B・・・80%未満
- ・ 評価 C・・・70%未満
- ・ 評価 D・・・60%未満

アセスメント対象となっているディレクトリの構成とファイル一覧のパスが表示されます。

- ・ **ディレクトリ構成**
V2C-アセスメント・ツールで選択したアセスメント対象となる.vbp ファイルを含んだディレクトリ以下の構成
- ・ **プロジェクトファイル一覧**
アセスメント対象となっている全.vbp ファイルのパス
- ・ **フォームファイル一覧**
アセスメント対象となっている全.frm ファイルのパス
- ・ **標準モジュール一覧**
アセスメント対象となっている全.bas ファイルのパス
- ・ **クラスモジュール一覧**
アセスメント対象となっている全.cls ファイルのパス
- ・ **バイナリフォーム一覧**
アセスメント対象となっている全.frx ファイルのパス
- ・ **OCX 一覧**
アセスメント対象となっているソースで使用されている全 OCX ファイル
- ・ **デザイナー一覧**
アセスメント対象となっているソースで使用されている全デザイナーファイル
- ・ **外部ライブラリー一覧**
アセスメント対象となっている全 DLL 関数
- ・ **参照設定一覧**
アセスメント対象となっているソースで設定されている全参照

【開発対象ライブラリー一覧】				
①カテゴリ	②ライブラリ	③要素	④種別	⑤回数
フィールド/プロパティ	vaSpread	OperationMode	定義なし	2
イベント	Ftp	State	定義なし	33
コントロール/クラス	GlueScope		定義なし	5
メソッド	xInputText	ClearControl	定義なし	6
関数/ステートメント	DateToLong		未実装	28

アセスメント時に未対応と判断された内容の内訳です。これらが開発対象として検討しなければならない箇所となります。

1. カテゴリ

新規開発が必要となるライブラリのカテゴリ

- ・ コントロール/クラス
- ・ 関数/ステートメント
- ・ 画面プロパティ
- ・ 画面コントロール
- ・ グローバル変数
- ・ プロパティ
- ・ イベント
- ・ メソッド

2. ライブラリ

新規開発が必要となるクラス名や関数名

3. 要素

新規開発が必要となるライブラリの要素名

4. 種別

未対応と判断された理由

- ・ 定義なし：対象のソース内で使用されているライブラリをツールが認識出来ていない場合出力される。
- ・ 未実装：実装されていないライブラリが出現した場合出力される。

5. 回数

該当するライブラリがアセスメント対象となっている全.vbp ファイル内で使用されている回数

7. アセスメント結果

アセスメント対象となっているディレクトリに含まれる.vbp ファイル毎のアセスメント結果です。

【アセスメント結果】	
① 実施ver	: 1.4.0
② 実施日時	: 2008年11月05日 12時00分
③ プロジェクト名	: Project1
④ プロジェクト種別	: 標準 EXE
⑤ 処理時間	: 00:00:82

1. 実施 ver

アセスメントを実施したアセスメント・ツールのバージョン

2. 実施日時

対象となる.vbp ファイルのアセスメントを実施した日時

3. プロジェクト名

対象となる.vbp ファイルのプロジェクト名

4. プロジェクト種別

対象となる.vbp ファイルの種別

5. 処理時間

対象となる.vbp ファイルのアセスメントに所要した時間

【VBファイル種類別変換率サマリ】							⑩【変換率評価】			
①ファイル種類	②本数	③総行数	④空行	⑤コメント行	⑥コンバート対象行	⑦変換率	評価A	評価B	評価C	評価D
フォーム(OCX有)	20	16733	802	1234	17535	95%	20	0	0	0
フォーム(OCX無)	1	244	31	15	290	87%	1	0	0	0
標準モジュール	10	4746	437	927	6110	95%	9	1	0	1
クラスモジュール	4	3233	156	672	4061	97%	3	0	1	0
バイナリーフォーム										
合計	35	24956	1426	2848	27996	95%	33	1	1	1

アセスメント対象となっているファイルの種類別変換率に関する表です。又、変換率に基づいた評価の一覧もご覧頂けます。

1. ファイル種類

対象となる.vbp ファイルが参照している各種ファイルの種類

- ・ フォーム(OCX 有)・・・OCX を含む.frm ファイル
- ・ フォーム(OCX 無)・・・OCX を含まない.frm ファイル
- ・ 標準モジュール・・・.bas ファイル
- ・ クラスモジュール・・・.cls ファイル
- ・ バイナリーフォーム・・・.frx ファイル

2. 本数

ファイル種類に該当するファイル数の合計

3. 総行数

ファイル種類に該当するファイルにおける行数の合計

4. 空行

ファイル種類に該当するファイルにおける空行の合計

5. コメント行

ファイル種類に該当するファイルにおけるコメント行の合計

6. コンバート対象行

3.総行数 - 4.空行 - 5.コメント行

7. 変換率

(6.コンバート対象行 - (エラー行() + ライブラリ未対応行)) / 6.コンバート対象行

エラー行: 本ツールにて認識できないVBの構文がアセスメント対象ソースに含まれている場合エラー行としてカウントされます。

8. 変換率評価

ファイル種類に該当するファイルを変換率で見た内訳

- ・評価 A・・・80%以上
- ・評価 B・・・80%未満
- ・評価 C・・・70%未満
- ・評価 D・・・60%未満

【ファイル別変換率サマリ】				
①ファイル名	②DLL関数	③OCX	④変換率(%)	⑤ファイルパス
Form1.frm		○	94%	C:\¥V2C-アセスメント¥対象プロジェクト¥Form1.frm
Class1.cls	○		99%	C:\¥V2C-アセスメント¥対象プロジェクト¥Class1.cls
Class2.cls			90%	C:\¥V2C-アセスメント¥対象プロジェクト¥Class2.cls

アセスメント対象となっているファイル別変換率に関する表です。

1. ファイル名

対象となる.vbpファイルが参照している各種ファイル名

2. DLL 関数

該当するファイルに DLL 関数が含まれているかどうか

- ・・・含まれている

3. OCX

該当するファイルに OCX が含まれているかどうか

- ・・・含まれている

4. 変換率(%)

(コンバート対象行 - (エラー行 + ライブラリ未対応行)) / コンバート対象行

5. ファイルパス

該当するファイルのパス。

- ・ **プログラム構成**

対象となる.vbp ファイルを含むディレクトリの構成

- ・ **OCX 一覧**

アセスメント対象となっている.vbp で使用されている OCX ファイル

- ・ **デザイナー一覧**

アセスメント対象となっている.vbp で使用されているデザイナーファイル

- ・ **外部ライブラリー一覧**

アセスメント対象となっている.vbp で使用されている DLL 関数

- ・ **参照設定一覧**

アセスメント対象となっている.vbp で設定されている参照

【開発対象ライブラリー一覧】				
①カテゴリ	②ライブラリ	③要素	④種別	⑤回数
コントロール/クラス	GlueScope		定義なし	1
フィールド/プロパティ	MrsBtn	Enabled	定義なし	8
イベント	MrsBtn	Click	定義なし	71
メソッド	CSpread	Listing	定義なし	6
関数/ステートメント	Wait		未実装	1

アセスメント時に未対応と判断された内容の内訳です。これらが開発対象として検討しなければならない箇所となります。

1. カテゴリ

新規開発が必要となるライブラリのカテゴリ

- ・ コントロール/クラス
- ・ 関数/ステートメント
- ・ フィールド/プロパティ
- ・ プロパティ
- ・ イベント
- ・ メソッド

2. ライブラリ

新規開発が必要となるクラス名や関数名

3. 要素

新規開発が必要となるライブラリの要素名

4. 種別

未対応と判断された理由

- ・ 定義なし：対象のソース内で使用されているライブラリをツールが認識出来ない場合出力される。
- ・ 未実装：実装されていないライブラリが出現した場合出力される。

5. 回数

該当するライブラリが対象ファイル内で使用されている回数

8. お問い合わせ

トラブルシューティングでも解決できない場合など不明点が御座いましたら、お手数ですが下記メールアドレスまでご連絡下さい。

V2C-アセスメント・ツールお問い合わせ窓口 vb2curl@curlap.com